

平成 28 年 2 月 17 日

ユネスコ無形文化遺産代表一覧表への 2017年サイクルの提案について (「^{らいほうしん}来訪神：仮面・仮装の神々」)

我が国からのユネスコ無形文化遺産代表一覧表への提案について、本日、文化審議会（世界文化遺産・無形文化遺産部会）において、別紙のとおり、2017 年（平成 29 年）サイクルの審査案件として「来訪神：仮面・仮装の神々」をユネスコに提案することを決定いたしましたので、お知らせいたします。

今後は、無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議（3 月上旬開催予定）において審議の上、3 月末にユネスコに提案書を提出し、平成 29 年秋にユネスコ政府間委員会（無形文化遺産保護条約政府間委員会）において審議が行われる予定です。

（参考）今後の予定

平成 28 年 3 月	無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議において審議
平成 28 年 3 月末	ユネスコ事務局に提案書を提出
平成 29 年 10 月頃	ユネスコ評価機関による事前審査の勧告
平成 29 年 11 月頃	ユネスコ政府間委員会において審議

＜担当＞ 文化庁文化財部伝統文化課文化財国際協力室
室長補佐 守山 弘子（内線 3056）
係 長 荻原 知也（内線 2870）
電話：03-5253-4111（代表） 03-6734-2870（直通）
FAX：03-6734-3820

らいほうしん
来訪神行事の提案概要

1. 名 称

来訪神：仮面・仮装の神々

2. 内 容

仮面・仮装の異形の姿をした者が、「来訪神」として、年の初めや季節の変わり目などに家々を訪れ、子供や怠け者を戒めたり、人々に幸や福をもたらしたりする行事。

3. 分 野

年中行事（儀式 rituals）

4. 構 成

国指定重要無形民俗文化財である「来訪神」行事 8 件

- ・ 飫^{ごしき}島のトシドン（鹿児島県薩摩川内市）
- ・ 男^お鹿のナマハゲ（秋田県男鹿市）
- ・ 能^の登のアマメハギ（石川県輪島市・能登町）
- ・ 宮^{みや}古^こ島のパーントゥ（沖縄県宮古島市）
- ・ 遊^ゆ佐^さの小正月行事（アマハゲ）（山形県遊佐町）
- ・ 米^よ川^ねの水かぶり（宮城県登米市）
- ・ 見^み島^{しま}のカセドリ（佐賀県佐賀市）
- ・ 吉^{よし}浜^{はま}のスネカ（岩手県大船渡市）

5. 保護措置

伝承者養成，記録作成，用具修理・新調，普及促進 等

6. 提案要旨

- 「来訪神：仮面・仮装の神々」は，正月など年の節目を迎えるに当たり，仮面や蓑（みの）笠（かさ）などを身につけて来訪神に扮（ふん）した者が家々を訪れ，子供や怠け者を戒めたり，災厄をはらったりし，人々に幸や福をもたらす行事である。
- 来訪神行事は，伝承されている各地域において，時代を超え，世代から世代へと受け継がれてきた年中行事であり，それぞれの地域コミュニティでは，来訪神行事を通じて地域の結びつきや，世代を超えた人々の対話と交流が深められている。
- 「来訪神：仮面・仮装の神々」のユネスコ無形文化遺産代表一覧表への記載は，地域の人々の絆（きずな）としての役割を果たしている無形文化遺産の保護・伝承の事例として，国際社会における無形文化遺産の保護の取組に大きく貢献するものである。

(別紙)

(参考) これまでの経緯

平成21年 9月 ユネスコ無形文化遺産保護条約第4回政府間委員会（アブダビ・アラブ首長国連邦）において「甑島のトシドン」がユネスコ無形文化遺産代表一覧表に記載される。

平成23年11月 同第6回政府間委員会（バリ・インドネシア）において「男鹿のナマハゲ」が「情報照会」の決議を受ける。

国指定重要無形民俗文化財である来訪神行事

こしきじま
「甑島のトシドン」（平成21年ユネスコ無形文化遺産代表一覧表「記載」）

所在地：鹿児島県薩摩川内市 指定年月日：昭和52年5月17日

保護団体：甑島のトシドン保存会

概要：下甑島に伝承される来訪神の行事。大みそか（12月31日）の夜、長い鼻に大きな口のついた面を被り、藁（わら）蓑（みの）などをまとってトシドンが子供のいる家々を訪れ、大声で子供を脅かしたり、よい子になるよう諭したりし、最後に年餅と呼ばれる餅を子供に与えて去っていく。



おが
「男鹿のナマハゲ」（平成23年ユネスコ無形文化遺産代表一覧表「情報照会」）

所在地：秋田県男鹿市 指定年月日：昭和53年5月22日

保護団体：男鹿のナマハゲ保存会

概要：男鹿半島一帯に伝承される来訪神の行事。大みそか（12月31日）の夜、鬼のような面や藁（わら）蓑（みの）などを身につけたナマハゲが家々を訪れ、怠け者や泣く子などを戒める。家の主人から酒食のもてなしを受けた後、次の家へ向かう。



のと
「能登のアマメハギ」

所在地：石川県輪島市・能登町 指定年月日：昭和54年2月3日

保護団体：能登のアマメハギ・面様年頭保存会

概要：能登地方に伝承される来訪神の行事。正月や節分に、天狗（てんぐ）面や男・女の面などの仮面をつけたアマメハギ（輪島市・能登町）やメンサマ（輪島市）が家々を訪れ、怠け者を戒めたり、おはらいをして回る。



みやこじま
「宮古島のパーントウ」

所在地：沖縄県宮古島市 指定年月日：平成5年12月13日

保護団体：島尻自治会、野原部落会

概要：宮古島の島尻と野原に伝承される来訪神の行事。島尻では、旧暦9月に、面とつる草を身につけ、全身に泥を塗ったパーントウが集落に現れ、悪霊をはらうと
いって泥をつけて回る。野原では、旧暦12月に、面をつけた子供や草を体に巻いた女性たちが集落を回って厄払いをする。



ゆざ
「遊佐の小正月行事」（アマハゲ）

所在地：山形県遊佐町 指定年月日：平成11年12月21日

保護団体：遊佐のアマハゲ保存会

概要：遊佐町の女鹿・滝ノ浦・鳥崎に伝承される来訪神の行事。正月の夜に、鬼のような面や藁（わら）蓑（みの）を身につけたアマハゲが家々を訪れ、子供や嫁などを威嚇したり、年寄りには肩をたたき、腰をもんだりする。各家は酒食でもてなしたり、餅を渡したりする。



よねかわ
「米川の水かぶり」

所在地：宮城県登米市 指定年月日：平成12年12月27日

保護団体：米川の水かぶり保存会

概要：登米市の米川に伝承される、来訪神行事の要素をもつ初午の火伏の行事。顔に墨を塗り、藁（わら）製の装束を身にまとった異装の若者や厄年の男性が家々をまわり、火伏を祈願して水をかける。



^{みしま}
「見島のカセドリ」

所在地：佐賀県佐賀市 指定年月日：平成15年2月20日

保護団体：加勢鳥保存会

概要：佐賀市蓮池町の見島に伝承される来訪神の行事。旧暦1月14日の夜（現在は2月の第2土曜日に固定），笠（かさ）を被り，蓑（みの）を付けたカセドリが家々を回る。玄関口から上がり込むと体をかがめ，先端を割った青竹を床に打ちつけて鳴らす。



^{よしはま}
「吉浜のスネカ」

所在地：岩手県大船渡市 指定年月日：平成16年2月6日

保護団体：吉浜スネカ保存会

概要：大船渡市三陸町の吉浜に伝承される来訪神の行事。小正月（1月15日）の夜に，奇怪な面やアワビの殻をつけ，俵を背負ったスネカが家々を訪れ，怠け者や泣く子などを戒める。スネカは，家人と問答した後，餅をもらって退散する。



ユネスコ無形文化遺産について

2016年2月1日現在

条約の概要

2003年 **無形文化遺産保護条約** 採択〔2004年 日本締結(世界で3番目)、2006年 発効〕

※世界遺産条約【有形遺産】(1972年採択、1975年発効)

【目的】 ■ 無形文化遺産の保護

■ 無形文化遺産の重要性及び相互評価の重要性に関する意識の向上 等

【内容】 ■ 「**人類の無形文化遺産の代表的な一覧表**」(代表一覧表)の作成

■ 「緊急に保護する必要がある無形文化遺産の一覧表」の作成

■ 無形文化遺産基金による国際援助 等

締約国数: 166

我が国の無形文化遺産登録(代表一覧表記載)状況等

現在 22件
世界全体では336件

重要無形文化財 文化審議会決定
重要無形民俗文化財 情報照会

2008	のうがく 能楽	にんぎょうじゅうりふんらく 人形浄瑠璃文楽	かぶき 歌舞伎	
2009	ががく 雅楽 こしきまのとしどん 飯島のトシドン 【鹿児島】 ちやつきらこ チャッキラコ 【神奈川】	おちやぢみ・えちこじょうふ 小千谷縮・越後上布 【新潟】 おくのとのあえのこと 奥能登のあえのこと 【石川】 だいにちどうぶがく 大日堂舞楽 【秋田】	ひたちふりゆうもの 日立風流物 【茨城】 はやちねかぐら 早池峰神楽 【岩手】 だいもくたて 題目立 【奈良】	きょうとぎおんまつりのやまほこじょうじ 京都祇園祭の山鉾行事 【京都】 あきうのたうえおどり 秋保の田植踊 【宮城】 あいぬこしきぶよう アイヌ古式舞踊 【北海道】
2010	くみおどり 組踊	ゆうきつむぎ 結城紬 【茨城・栃木】		
2011	みぶのはなたうえ 壬生の花田植 【広島】	さだしんのう 佐陀神能 【島根】	ほんみのし 【情報照会】 本美濃紙、秩父祭の屋台行事と神楽、高山祭の屋台行事、男鹿のナマハゲ	ちちぶまつりのやたいぎょうじとかぐら 【情報照会】 本美濃紙、秩父祭の屋台行事と神楽、高山祭の屋台行事、男鹿のナマハゲ
2012	なちのでんがく 那智の田楽 【和歌山】			
2013	わしよく 和食 ；日本人の伝統的な食文化	にほんじんのでんとうてきなしょくぶんか		
2014	わし 和紙 ；日本の手漉和紙技術	にほんのてすきわしぎじゅつ 【石州半紙、本美濃紙、細川紙】	せきしゅうばんし 【石州半紙、本美濃紙、細川紙】	ほんみのし 【石州半紙、本美濃紙、細川紙】
提案中	やまほこやたいぎょうじ 山・鉾・屋台行事	※京都祇園祭の山鉾行事、日立風流物に、秩父祭の屋台行事と神楽【埼玉】、高山祭の屋台行事【岐阜】ほか 国指定重要無形民俗文化財である山・鉾・屋台行事を追加して拡張提案【2015年3月提案、2016年11月審査】		

登録までの流れ

■ 締約国からユネスコに申請(毎年3月)

【毎年、各国1件の審査件数の制限】

* 2016・2017年は2年に1件の審査保障
* 無形文化遺産の登録のない国の審査を優先

■ 評価機関による審査

■ 政府間委員会において決定(翌年11月頃)

- ① 記載(inscribe)
- ② 情報照会(refer)⇒ 追加情報の要求
- ③ 不記載(not to inscribe)
⇒ 4年間、再申請不可

登録基準 <無形文化遺産保護条約運用指示書(抜粋)>

■ 申請国は、申請書において、代表一覧表への記載申請案件が、次のすべての条件を満たしていることを証明するよう求められる。

1. 申請案件が条約第2条に定義された「**無形文化遺産**」を構成すること。

(a) 口承による伝統及び表現 (b) 芸能 (c) 社会的慣習、儀式及び祭礼行事
(d) 自然及び万物に関する知識及び慣習 (e) 伝統工芸技術

2. 申請案件の記載が、無形文化遺産の認知、重要性に対する認識を確保し、対話を誘発し、よって世界的に文化の多様性を反映し且つ人類の創造性を証明することに**貢献**するものであること。3. 申請案件を保護し促進することができる**保護措置**が図られていること。4. 申請案件が、関係する社会、集団および場合により個人の可能な限り**幅広い参加**および彼らの自由な、事前の説明を受けた上での**同意**を伴って提案されたものであること。

5. 条約第11条および第12条に則り、申請案件が提案締約国の領域内にある無形文化遺産の目録に含まれていること。